

平成 29 年度 第 3 回 学校協議会報告

【日 時】 平成 29 年 2 月 23 日 (金) 14 時～16 時 セミナーハウス 3 階研修室

【出席者】

学校協議会委員：岩井 英雅 (元府立学校准校長) 大原 武史 (寝屋川市立第一中学校)
土 静江 (北水会) 水野 洋子 (P T A 定時制委員会委員長)
西田 智子 (P T A 定時制委員会副委員長)

准 校 長：大森 孝志

事 務 局：伊藤 牧子 (教頭) 北村 陽子 (首席・養護教諭) 林 雄大 (教務主任)
庄司 樹生 (生徒指導主事) 中村 久子 (進路指導主事)
神原 優希 (4 年学年主任) 田代 興太郎 (3 年学年主任)
和氣 裕祐 (2 年学年主任) 西本 裕幸 (1 年学年主任)

1 開会

2 会長挨拶

3 准校長挨拶

4 協議

- (1) 平成 29 年度 学校教育自己診断と検討結果について
- (2) 第 2 回授業アンケートについて
- (3) 平成 29 年度 学校経営計画及び自己評価について
- (4) 質疑応答及び意見交換
- (5) その他

(1) ～ (4) について

【教務部】

勉強がわかる喜びを伝える

- 授業アンケート⇒全体的に右下がりになっているが生徒の情熱が下がったわけではなく、ここ数年である程度の形ができあがってきたということもある。今後も試行錯誤しながら生徒のニーズに合わせた授業作りをしていきたい。
- 授業力向上を目的に、教科を超えての授業見学や授業の映像チェックを実施した。
- 授業の遅刻指導を強化することで、授業の大切な導入部分から参加することができ、また、遅刻者のために授業効率が悪くなることを防止することができた。
- 全教室内にプロジェクターが設置されたので、I C T の活用が容易になった。また、I C T 機器の管理を徹底していきたい。
- 学校教育自己診断の生徒への設問である「教室以外にも学校内に自分の居場所がる。」の数値が昨年度よりも 2% 増加した。図書室が本来の目的で活用されると同時に生徒の居場所にもなっている。
- 各教科で発行しているテスト対策プリント (考査前) は、学習方法がわからない生徒にとって非常にわかりやすい。

提言 1

- 図書室が居場所のひとつになるよう、積極的に活用してほしい。
- 生徒が読みたい本を生徒に聞いてみるのも方法の一つである。
- わかりやすい教材プリントは生徒の学習意欲向上につながっているのだから、さらにわかりやすく丁寧に作成し活用してほしい。
- 今後も引き続き、わかりやすい授業は作りを工夫し登校意欲向上に繋げてほしい。

【生徒指導部】

人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

- ケータイ指導については、今年度に入って「慣れ」が出てきている。他の生徒が触っているのを見つけた結果がアンケートに反映されている。

- あいさつについては、数値は下がっていても実際には校門指導で積極的にあいさつをしてきている。生徒会でも「あいさつ啓発ポスター」を作成した。
- 学校行事については、保護者アンケートで「参加したい」のポイントが上がっている。今後も質の高い行事を企画し、地域にも開かれた学校を目標にやっていきたい。

提言 2

- 学校行事を通して、積極性を養い、成功体験を増やすことは 生徒の自信を育てる大切な機会となっている。今後さらに学校行事の充実をお願いしたい。
- 学校行事では、大幅に外部からの入場者が増加している。地域の方々に定時制の生徒の様子を見ていただき、地域に支えられる学校でありたい。

【進路保健部】

夢や志を抱く喜びを伝える

- 進路講演会（外部講師）では、新入社員の体験談が大変好評であった。
- 奨学金説明会への参加率はホームページへの掲載の成果で昨年度よりも認知率が上昇した。
- 進路決定率は 75.6%（目標は 60%）
- 面接練習だけでは面接で見抜かれてしまう。3～4年かけて礼儀や言葉使いなどを教育することが課題である。

提言 3

- 進路指導において、さまざまな体験談を聞く企画を増やし、さらに内容を充実させてほしい。
- 人間関係の基本である「あいさつ」ができる人間に育ててほしい。
- アルバイト等の就業体験を通して、基本的な勤労意欲やマナーを身につけてほしい。

【首席】

校内組織の活性化と人材育成

<校務検討委員会での主な検討内容>

- 「様々な課題をかかえる生徒の高校生活支援プロジェクト」習熟度別少人数授業の検証と総括、次年度の内容について（担当：中退防止コーディネーター）
- 防犯マニュアルの全面改訂（担当：生徒指導主事）
- 「定時制における修学旅行の在り方」について次年度継続検討

<人材育成>

- たまがわ高等支援学校における教職員研修（13名参加）
主な研修内容：授業内容（教授方法や教材など）、生徒指導、進路指導 等
- 「非暴力的危機介入法」「グリーンケア」「障がいや発達に課題のある生徒の進路について」
情報提供

准校長より

- 進んでいる学校を実際に見て学ぶことは大事だ。入試状況も時代と共に変化している。その時代の流れにどのように対応していくのかを検討する中心的な場が校務検討委員会である。
- 教員が新採用で定時制にくることはいいこと。わかる授業をしなければ生徒は聞いてくれない。
- 教職員研修だけではなく、日々の教育活動を通して、教職員生活の基本的姿勢を培っていくことが大事だ。

全体を通して

- 生徒自身が寝屋定に来てよかったと思える。保護者が学校に通っている子どもの表情や変化を見て安心できる。そんな学校作りを期待する。

(5) その他

来年度より「学校協議会」が「学校運営協議会」に変更になる。